

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第7部門第1区分

【発行日】平成17年4月14日(2005.4.14)

【公表番号】特表2004-514264(P2004-514264A)

【公表日】平成16年5月13日(2004.5.13)

【年通号数】公開・登録公報2004-018

【出願番号】特願2002-547197(P2002-547197)

【国際特許分類第7版】

H 0 1 J 27/08

C 2 3 C 14/32

H 0 1 J 37/04

H 0 1 J 37/08

H 0 1 J 37/317

H 0 5 H 1/24

【F I】

H 0 1 J 27/08

C 2 3 C 14/32 B

C 2 3 C 14/32 E

H 0 1 J 37/04 A

H 0 1 J 37/08

H 0 1 J 37/317 E

H 0 5 H 1/24

【手続補正書】

【提出日】平成15年6月6日(2003.6.6)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0046

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0046】

ケーススタディー2：フッ化カルシウム

バルクフッ化カルシウムは、550nmの厚さで $n = 1.21$ （バルク）という、薄フィルム材のうちで最も低い屈折率を有し、フッ化マグネシウムに比べて非常に広い透明度範囲を有する。蒸着された $\text{CaF}_2$ 薄フィルムは、僅か50%～60%のパッキング密度を有しているので、極めて柔軟であり、損傷されやすい。 $\text{CaF}_2$ コーティングは、ワイピングによって損傷を受けやすいので、クリーンな環境で使用する事がほとんど不可欠である。表2は、パルスイオンボンバードを用いて蒸着したフッ化カルシウムと、パルスイオンボンバードを用いずに蒸着したフッ化カルシウムの比較データを示す。